



## お金の持ち主

大阪府・吹田市立南千里中学校 3年 渡 春奈

私はお金の価値は金額ではなく稼いだ人の気持ちの大きさだと思う。私がこのように思い始めたのはある小さな事件がきっかけだった。

小学5年生の頃、私は道に財布を落としてしまったことがある。中身はたいした額ではなかったので、捜しもせずあきらめてしまった。その日の夜姉に言うと、すごく怒ってこう言った。

「あのお金はあなたの財布に入っただけであたのお金じゃない。お父さんやお母さんが私達のために一生懸命働いて稼いだお金なの。」

この言葉に私はまだ納得できなかった。

「確かに、お父さんが働いて稼いだお金だけど盗んだわけではないよ。お父さんからもらったお金なの。だからもう私のものだったの。」

「まだ分からないの。とにかく捜しに行くよ。お姉ちゃんもついて行ってあげるから。」

その時私は仕方なく姉について行くという感じだった。まだなくしたお金の大切さに気付いていなかった。

その日はとうとう見つからなかったが姉は最後の最後まで必死になって捜していた。次の日も、その次の日も捜したが見つからなかった。私はどうして姉がたいした金額の入っていない財布にそんなにこだわるのか不思議だった。私が風邪をひいてしまった日も姉は一人で捜しに行った。

そして、財布をなくしてから5日後、用事で父の会社に行くことになった。会社で見る父はすごく熱心だけどすごく大変そうでその時初めて仕事の大変さを感じた。父が弱音を吐いたことはなかったが残業で遅くなった日は多々あった。その日の父はすごくしんどそうだった。

私はなくした財布のことを思い出した。あの財布の中身は、父の何分かの給料でしかない。けれどもその何分かの給料の中には、父の思いが沢山つまっている。





大きな仕事をやり遂げた時の何分かや、悔しい、悲しい、嬉しい時の何分かの仕事の給料かもしれない。

そう考えると私はあの財布のことが気になり、夢中で財布を捜した。けれども結局財布は見つからず落ち込んでいます、「いいんだよ。お金大切に気付けただけでも。それだけ必死に捜してくれて、責める人なんて誰もいない。」

と父は優しく慰めてくれた。私は父の優しさに自分がたいしたことないお金と考えていたことが恥ずかしくなりました。

私はこの失敗から2つのことを学んだ。

1つ目は、両親からお小遣いやお年玉でもらったお金は決して自分のお金ではないということ。自分がもらったお金は自分のものなのでどう使おうと自由というわけではない。自分でお金を稼いだことがないのでお金を稼ぐことの大変さは分からないが大人達が大変そうな顔で毎朝通勤しているのは知っている。これからは300円のシャープペンシルでも本当に必要か考えてから買いたいと思う。

2つ目は、お金の価値は金額ではなく稼いだ人の気持ちの大きさだということ。誰だって盗んだお金で買った100万円のダイヤより一生懸命働いて買った1万円のカバンの方が嬉しいものである。

この2つのことから、「自分のお金」というものは1円だってないことや一生懸命働いたお金はとても大切なものであることが分かる。

私はあれから財布のことを忘れたことも、財布をなくして初めて気付くことのできたお金の大切さを忘れたこともない。そしてこれからも絶対に忘れないようにしたい。

きっと将来初めてお金を稼いだ時、働くことの大変さに改めて気付き、無駄遣いもできなくなるだろう。それが一番大切なことなんだろう。私はこの大切な気持ちをできるだけ多くの人に知ってほしいと思う。そしてお金をもっと大切に使ってほしい。

